

安全・景観・環境を提案する"群交協"

発行

群馬県交通安全施設業協同組合

前橋市大手町1-2-6 ☎027-223-3343

発行責任者 中井正弘

編集発行人 武田彰

第75号

群交協だより

URL:<http://www.gunkoukyou.com/>

平成31年1月10日 発行

群馬県交通安全施設業協同組合

理事長 中井 正弘



新年あけましておめでとうございます。組合員皆様のご協力により今年も無事に新年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、身の危険を感じるほどの猛暑、北海道胆振東部地震、近畿地方を直撃した台風二十一号と日本列島を縦断して大きな自然災害に見舞われた年になりました。人間の驕りにくさを刺す人知を越えた自然の脅威に対して「なんて人間は無力なのか」と思うと同時に人の絆のすばらしさ、人命の尊さを改めて知る年であったように思います。自然の脅威に立ち向かうわけにはいきませんが、私たち組合員は交通安全施設を通じて交通事故という人災に対して立ち向かわねばなりません。平成二六、二七、二八年と三年連続で群馬県が中高生の自転車事故率全国ワースト1ともなっております。また、昨年は新年早々に高齢者の運転する自動車が高校生の自転車に衝突した痛ましい死亡事故がありました。近年の傾向として交通事故件数は皆様のご努力により減少傾向となっておりますが、歩行者と自転車による事

群馬県知事 大澤 正明



明けましておめでとうございます。

群馬県交通安全施設業協同組合の皆さまには、すがすがしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は新年早々に、前橋育英高校が全国高等学校サッカー選手権大会で初優勝を成し遂げ、県民に大きな夢と感動を与えてくれました。

産業の分野では、三十年上期の工場立地件数・面積において、いずれも群馬県が全国一位となりました。件数・面積が共に一位となったのは初めてであり、本県の交通環境の優位性や拠点性の高さが総合的に評価され、大変うれしく思っております。

さて、今年には県政の羅針盤である「第十五次総合計画」の最終年度を迎えます。総合計画の三つの基本目標である「人づくり」、「安全・安心な暮らしづくり」、「産業活力の向上と社会基盤づくり」の実現に向け、全庁一丸となって取り組んでまいります。

まず「人づくり」では、将来にわたって、社会資本の着実な整備や適切な維持管理を推進し、地域の安全・安心を確保するため、建設産業の担い手の確保・育成をしっかりと支援します。

次に「安全・安心な暮らしづくり」では、昨年発生した本

故、高齢者を起因とした事故は減っていません。生活道路を中心とした交通安全対策等、私たち組合員は人命の尊さを常に意識し交通事故を未然に防止出来る交通安全施設整備をライフワークにこれからも活動してゆきたいと思っております。

さて、昨年におけるの組合活動ですが、皆様のご協力により大変充実した活動ができました。社会貢献事業では、清掃作業はもとより数多くの専門家目線による標識、防護柵の点検をしていただきました。二年目となります県主催のぐんま道路フェアへの参加では昨年に続き多くのリピーターの方に来ていただきました。実物の案内標識の展示は今年も子供たちに大人気でした。子供たちの未来のためにも私たち組合員も頑張つてゆかねばと思います。

平成三十一年も組合員、またそのご家族も含め希望を持って、また健康で幸せに過ごすことができますようにご祈念申し上げ新年のあいさついたします。

白根山噴火による被害や、近年、全国各地で頻発・激甚化する水害や土砂災害、大規模地震の被害を踏まえ、県民の生命と財産を守り、安全・安心が確保できるよう、ソフトとハードの両面から防災・減災対策を推進します。

また三十一年度には八ッ場ダムがいよいよ完成する予定です。ダム完成に合わせ、地元住民の方々が安心して生活が送れるよう、生活再建事業をしっかりと推進します。

さらに「産業活力の向上と社会基盤づくり」では、来春の開所に向け、群馬コンベンションセンター「Gメッセ群馬」の建設を着実に進めるとともに、更なる物流の効率化を図り、生産性や利便性を飛躍的に向上させるため、引き続き「七つの交通軸の整備・強化」を計画的かつ重点的に推進します。

「群馬で暮らし始めたくなる、住み続けたいくなる、家族を増やしたくなる」ような魅力あふれる群馬の未来創生に向けて、「はばたけ群馬・県土整備プラン」に基づく社会資本の整備と維持管理に全力で取り組んでまいります。

結びに、この一年が貴組合の皆さまにとって健康で幸多い年になりますとともに、安全な交通環境の創出のため、より一層の御支援を賜りますよう心から祈念申し上げます、新年のあいさついたします。

第27回 交通安全施設研究会

平成三十年十月二十五日(木)前橋問屋センター会館において組合員及び賛助会員のほか、各関係官庁職員の皆様をお迎えし、「第二十七回交通安全施設研究会」を開催致しました。

冒頭に、当組合の中井理事長が「道路標識・防護柵・区画線は道路交通の安心安全の守りを担う要であり、この研究会を通して、当業界はあらゆることを学び、柔軟な発想を持って、新しい時代に対応していかなければならない」と挨拶を述べました。

その後、群馬県道路管理課交通安全施設係の佐藤雄太氏に、「サイクリングロードの維持管理」と題して、県内の道路の現況と管理の状況、補修計画などについて説明していただきました。

次に群馬県警察本部交通部交通規制課の吉井崇博課長補佐に「信号機による交通整理」をテーマに講演していただきました。

間に休憩をはさみ、鋼製防護柵協会開発技術部会の山田慶太氏から「暫定二車線用ワイヤーロープLED種の動向および生活道路用柵の設置」について解説していただきました。

続いて、当組合標示部会の新井部会長が「排水性舗装用ライソンの試験施工の経過」について、設置後9ヶ月経過した時点での状況報告を行いました。

最後に、日之出水道機器(株)埼玉営業所の青井哲平氏より「铸铁製基礎杭の活用事例」と題して、省スペーススリッド施工が可能な基礎杭の採用実績と事例並びに新たに開発した生活道路用柵向け基礎杭を紹介していただき、好評のうち終了することができました。

これからも、より良い技術や商品の情報を取り入れながら、安心・安全な道路交通環境整備を進めてまいりたいと思えます。



道路フェア・土木の日

平成三十年八月十九日(日)に前橋市の敷島公園ばら園駐車場において、ぐんま道路フェア2018が開催されました。群馬県県土整備部主催の、道路ふれあい月間における取り組みとして、道路を利用する方々にその役割や重要性を改めて認識して頂くとともに、正しい利用の啓発や道路政策を発信する事を目的としています。

当組合では、子供達に交通安全標語が入った可愛いイラストの「交通安全ぬり絵」に思い思いに色づけしてもらったほか、大型案内標識板の展示では直接触れてもらったことで、説明も熱心に聞いて頂けました。イベント終了まで、たくさんの方にご来場頂き、交通安全施設整備の大切さに興味を持って頂けたと思っております。

また、同じ主催で十一月に開催された、土木の日イベントIN2018では、土木写真家の西山芳一氏の「土木を撮る」と題した記念講演のほか、当組合では「道路標識の変遷」と銘打ち標識の歴史パネル展示を行い、普段の生活を支える「土木」について思いを馳せていただきました。



第27回 つり大会

平成三十年九月二日(日)に群交協青年部主催による第二十七回釣り大会が、前橋市柏倉町の大崎釣り堀にて盛大に開催されました。

心配していた天気も絶好の行楽日和となりました。組合員と賛助会員、そしてその家族が友好と親睦を深める目的で始まった釣り大会も、二十七回を数えるほどの恒例行事となっています。

総勢四九二人の歓声や子供達の笑顔が溢れる中、皆それぞれに楽しく賑やかな時を過ごしていただけと思っております。最後に行われた子供たちによるつかみ取りでは、慣れない手つきで「心不乱に魚を追いかける姿が微笑ましく感じられ、その後、無事に終了となりました。

なお、皆様からご協力頂きました募金並びに模擬店の売上金をあわせた十八万五千円は、十月九日(火)、佐藤交通遺児福祉基金に寄付させていただきました。組合員及び家族の皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。今年度の反省を活かし、次回はもっと良い大会にしていきたいと思います。



■組合員

ダイケンテクノ(株)・(株)日装・(株)中井産業・富友産業(株)・群馬ライン企画(株)・新日東(株)・(株)コムテックス・(株)サンテック・(株)三積商事・サン(株)・共進安全(株)・三菱産業(株)・昭和サイン(株)・(株)信交・(有)高崎保安機材・中央ライン(株)・(株)日栄ライン工業・(株)ヒロタ・富士技工(株)・マーケティングウェイ(株)・(株)三山・(株)友邦

■賛助会員

(株)アークノハラ交通施設部東日本トラック那須営業所・(株)吾妻商会交通用品部・アトミクス(株)・岩澤建設(株)群馬支店・岳南光機(株)・信号器材(株)北関東営業所・新道路企画(有)桐生支店・スリーエムジャパン(株)トランスポーターセーフティ事業部・積水樹脂(株)群馬工場・燕振興工業(株)・日鉄住金防蝕(株)道路資材グループ(群馬)・扶桑工業(株)群馬営業所・ヨシモトポール(株)関東支店